

理事長の頭の中

Chairman of Chitosekai Group
by Hiromasa Hidari

過去の頭の中

「頭の中」は2006年からスタートしました。抜粋特集として共有します。ぜひ、いきいきいふを千歳会と変換して、お読みください。

VOL.163. 2020. 2月号

「働き方改革」

スイッチON!!! ウイルスが猛威を奮っている中、千歳会で次亜塩素酸の噴霧器を全事業所に導入させていただきました。皆様のお気遣いの中、お客様へのインフルエンザ発生を抑えることができいております。日頃の凡事徹底に感謝しております。また、どうぞ皆様マスク、手洗い、うがいの徹底をお願いします!

働き方改革という話題が最近メディアからの発信が増えてきてますが、最初の趣旨はとてもいいと感じた。それは終身雇用の日本式から、それぞれがチャンスを掴むダブルワークを認めてもらえる方向は素晴らしいと思う。しかし、そこからだんだんと、なんだか都合のいい解釈が始めてきている気がする。

それは、休みや有給をとらせてくれ、もっと時間内で仕事を終わらせ残業をへらせと。会社内の問題を追求し働き方改革に準じていないからブラックとかたくさん不平不満が便乗されている機運がある。

もちろん、企業努力の中で必要だし、多いに議論し実行すべき課題であるが、ここから現代の流れとして、「雇用される側の姿勢」が問われてくると思う。

それは、勝ち取った空いた時間で自らが楽をするのではなく、その空いた時間で自分の時間を投資し、一つの会社からの給与だけでなく、他社やプチ起業して自分の年収を増やすことが、個人の人生を豊かにするということ。

これが働き方改革の視点においている考えかと思う。

そうなると、大きく雇用される側の転換期にきている。

政策の背景を考えると、個々人が自分たちの能力や時間を他にも投資しなければ、今の生活は保証できないと言っているように聞こえる。

会社の寿命も短く終身雇用は期待できない時代。だから、それぞれ備えるように、と聞こえてくる。

それを理解し気付いた人たちが、今努力し組織人として何に貢献しているのか自らを磨き、自分の時間を楽にするのではなく、

人を楽にする、端を楽にする。「はたらく」精神で、依存型ではなく、どう見られているのか魅力ある背中をみせながら、必要とされるための努力をしている人たちが、手に入れる制度改革なんだろう。



フェイスブック始めました。
お友達申請お待ちしております。

社会福祉法人 千歳会
理事長 左 敬真

